

平成29年 3月 市長定例記者会見

2017年 2月16日(木)

午後 1時30分 開始

【秘書広報課長補佐】 お待たせをしました。

定刻の時間となりましたので、ただいまより平成29年 3月市長定例記者会見を始めさせていただきます。

本日の会見の進行につきましては、お手元の次第のとおり、最初に市長の挨拶、その後、事業発表をいたします。質問につきましては、事業発表についてからお願いしたいと思います。事業発表の質疑応答終了の後に、次第の3番目、フリーの質疑応答へと進行したいと思っております。

なお、ご質問の際は、お手数ですが、ご自席のマイクのスイッチを入れていただき、ご質問の後は切ってくださいようお願いいたします。

終了は14時30分を予定しております。ご協力お願い申し上げます。

それでは、市長、よろしくお願いいたします。

【市長】 皆さん、こんにちは。今日は3月の定例記者会見ということでございますが、年が明けて早いというふうに思っております。29年度当初予算につきまして、それから28年の3月補正予算につきまして出させていただきますので、よろしくお願いいたします。

先日、15年かかってやっと産業団地が完売いたしましたよかったですと思っておりますが、これからもいろんな事業を前向きに取り組んでいきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【秘書広報課長補佐】 それでは、事業発表をお願いいたします。

【市長】 事業発表につきましては3件ございますが、まず1つ目につきましては、平成29年度当初予算と平成28年度 3月補正予算概要ということでございますが、平成29年度当初予算の概要について申し上げます。

本市の平成29年度当初予算は、地域経済の低迷により税収の増加が見込めない一方で、社会保障関係経費や福井国体等大型事業に係る負担が増加し、財源の確保に苦慮する状況にあります。このため当初予算編成に当たっては、行財政改革の取り組みを進めながら事業の見直し、各種目的基金からの繰り入れ等を行い、収支の均衡を図りました。

また、予算の配分につきましては、市政運営の羅針盤となる第6次敦賀市総合計画後期基本計画「敦賀市再興プラン」に掲げる施策を着実に推進するため、予算編成方針に掲げた重点施策に該当する事業を中心に配分を行うとともに、市制施行80周年記念事業や広域避難先との交流、大型クルーズ客船ダイヤモンド・プリンセスの寄港など、敦賀の魅力を発信するための事業を多数予算化しております。

当初予算の主な事業といたしましては、お手元に配付した資料のとおりですが、重点施策ごとに申し上げますと、「地域資源を活かした市街地の活性化」では、平成34年度末に北陸新幹線開業を迎える中で、地域資源を生かした中心市街地の活性化に向け、気比神宮や敦賀港周辺エリアへの誘客促進につなげる施策として、金ヶ崎周辺施設の整備方針等策定に係る経費や、クルーズ客船の寄港に合わせ、乗船客の方々に本市の魅力を感じ取っていただくためのおもてなしの経費を計上いたしました。また、気比神宮の大鳥居修復に対する補助やキッズパークつるが等の管理運営に係る経費を計上いたしました。

「災害に強い「ひと」・「地域」・「まち」づくり」では、原子力災害時における広域避難先についての理解を深めるため、市民の方々を対象とした奈良県内への避難施設の視察や交流に係る経費、それと災害時に避難所生活に必要な資機材、備蓄用品を購入する経費、さらには災害の種類、状況に応じて適切な避難行動が行えるよう指定緊急避難場所に表示看板を設置する経費を計上いたしました。

次に、「特色と強みを活かした産業の振興」では、将来における産業構造の複軸化を見据え、本市の特色と強みを活かした産業の振興を図るため、ハーモニアスポーツ構想策定事業において水素社会形成に向けた計画策定や道路網可能性調査に係る経費を計上いたしました。また、冬季の敦賀港の安定利用を支援するための運航事業者への補助や第2産業団地整備に係る経費を計上いたしました。

最後に、「心豊かな人を育む環境づくり」では、子育てしやすい環境づくりを推進するための小規模保育所の新設及び認定こども園の増改築整備に対する補助や、敦賀市立看護大学において準備が進められている大学院及び助産学専攻科設置に係る施設改修や備品整備に対する支援を行うとともに、ことし6月から10月にかけて開催される福井しあわせ元気国体のプレ大会に係る負担金を計上いたしました。

次に、平成28年度3月補正予算について申し上げます。

一般会計では、職員の早期退職に伴う退職手当や、今後の市庁舎の建てかえ及び大規模施設整備への対応を見据えた基金への積立金、1月下旬からの降雪により不足を生じる道路除雪に係る経費を計上いたしました。

特別会計におきましては、産業団地整備事業特別会計で分譲地売却に伴う公共施設整備基金への返還金等を計上いたしました。

以上が3月議会に提案いたします予算の概要でございます。

続きまして、水道未普及地域解消事業の完了についてということでございます。

平成21年度から整備を進めてきました水道未普及地域解消事業が完了し、平成29年3月1日より鳩原、小河口地区に給水を開始します。これをもちまして池河内、山中地区を除く敦賀市内全ての地区に水道が整備されたこととなります。

続きまして、3番目でありますけれども、キッズパークつるがオープンについてでございます。

平成29年3月26日の午後になりますけれども、キッズパークつるがオープンいたします。あわせて、2階、3階の県の施設を含めたアクアトムの開館式典ということを行う予定でございます。詳細につきましては、資料を添付してありますのでごらんください。

以上が発表項目であります。

以上です。

【秘書広報課長補佐】 ありがとうございます。

それでは、ただいま発表いたしました項目について質問を受けたいと思います。最初に、幹事社さん、お願いします。

【記者】 市長にお伺いします。今ご説明いただいたんですけれども、新年度の当初予算において、市長としてこういったことに重点配分したというものを1つ2つ挙げるとすれば何になりますか。

【市長】 今回の特徴といたしますと、市制80周年がありますので、その記念事業を行う

ということと、初めて海外の観光クルーズ客船が来ますので、そのダイヤモンド・プリンセスの寄港に合わせた事業を行うということでもあります。もう一つ、金ヶ崎周辺の施設の整備計画などの策定ということをやっていきますので、そこでにぎわいの創出をつくっていききたいというふうに考えております。

【記者】 ダイヤモンド・プリンセスにかかる期待が県も非常に大きいんですけども、県、市とも非常に大きな期待を抱いているようですけれども、本当に誘客、市内の活性化につながるんだったら、今のフェリーターミナルではなくて、もっとこちらの旧港のほうに接岸する入管、税関を臨時にでもいいですから、こちらにその数日間だけでも持ってきて対応することを検討されたほうがいいんじゃないかと思えます。現在のターミナルはバスでしか市街に誘客できませんよね。今のカーフェリーターミナルができたいきさつも^{そくばん}灰聞しておりますけれども、本当に鉄道の港のまちで売り出すんだったら、まちにすぐに接岸できる、まちからすぐ船に乗れるような方策を考えられることはありますか。短期ではありません。10年、15年という中長期の計画になるでしょうけれども、本当に海外からの誘客を目指すんだたらそういう方向性が必要だと思えますが、いかがでしょう。

【市長】 将来的にという話になると思いますが、今のフェリー乗り場がもうちょっとこちらの金ヶ崎のほうにあったらいいなという思いはあります。ただ、今来ますダイヤモンド・プリンセスというのは、そこにも入り切らなくて別の場所に接岸しますので、接岸場所としては将来的に、2期工事が行われた時点で検討していかなくてはいけない長期的な問題だと考えています。

あと、入管は福井のほうにありますし、税関は敦賀にも支所がありますので、それについても将来的には敦賀にあったほうがいいなという思いはありますけれども、今回については敦賀が海外から初寄港ではなくて2番目になると思っていますので、そういう意味では入管、税関については問題ないというふうに考えています。

【秘書広報課長補佐】 幹事社さん、よろしいでしょうか。

それでは、各社伺います。発表項目につきまして質問がありましたら挙手をお願いいたします。

【記者】 新年度当初予算案なんですけど、6年後の新幹線の敦賀開業を見据えて、まちづくりとかにもっとハード面を含めて投資すべきという声も少しあるんですけど、今回の予算は投資的経費を抑えているというか、前年比で27%減というところで、ここらの考え方を改めて市長にお伺いしたいなと思えます。

【市長】 今回の予算の大枠というか、テーマをつけるとすれば、敦賀の宝、魅力発信となるかと思えますけれども、新幹線に対してハード面についてというのは、ことしはちょっと出てこない年なのかなというふうに思いますが、ただ、ハード面ということだけを見ると、特別会計において産業団地や松島のポンプ場の長寿命化、それから木崎の配水池の更新ということもありますので、ハードについてお金を投資していないわけではないというふうにご理解いただきたいなと思えます。

今後に向けて当然、駅西のサウンディング調査が終わって次に向けてということもありますし、駅東に向けてもやっていかなくてはいけないことがたくさん出てきますので、今後、観光に向けてのハードということも投資していかなくてはいけないというふうに考えています。

【記者】 本年度は、側から見ていると、積極型か緊縮型かといったら緊縮型に見えるんですが、翌々年度ぐらいから市庁舎の整備とか小中一貫校の整備とか、そういうプロジェクトを見据えて大分ため込んでいるような印象を受けるんですが、そういうものではないということですかね。

【市長】 実際そういう庁舎とか小中一貫校ということもありますので、そういうところに投資していかなくてはいけないことはもう目に見えていますので、できるだけ行財政の改革を進めていこうということでことしも進めていくつもりでありますので、絞るものは絞っていきたい。ですけれども、やはり投資しなくてはいけない。ですから、ことしに対しては国体のプレ大会もありますし、来年は国体自体がありますので、そこでも大きなお金が出ていきますので。それはハードにも出ていく分もありますが、ソフト的なものもかなり出ていきますので、緊縮したわけではなくて十分に投資準備をしているというふうに考えていただきたいなと思います。

あえて言えば、アクアトムとか松原の公民館なんかの建設が終わりましたので、そういう意味では建物についての次のものは今ないかなと思いますけれども、解体作業も出てきますので、そういうところにもお金を使っていかななくてはいけないということもあります。

【記者】 市長、テーマとして敦賀の宝、魅力発信とおっしゃいましたけれども、その背景、どうしてそういうテーマにしたのかというのを伺いたいんですが。

【市長】 ことしは、さきのトピックスで言いましたように、市制80周年がありまして、ダイヤモンド・プリンセスの寄港も2回あります。国体のプレ大会も開催されますので、いろんな人が敦賀に来てくださる年だと思っておりますので、そのときに合わせて魅力の発信、宝の発信をしていきたいなというふうに思っています。

【記者】 もう一つ、もんじゅ廃炉に関して、地域振興策について国から今回の予算で何か重点的に支援いただいている部分というのはありますか。

【市長】 私はちょっと存じてないので、総務部長かどこかをお願いします。

【総務部長】 廃炉交付金につきましては、平成28年当初に比べまして今年度は1.7億円の増加ということになっておるところでございまして、それ以上のことについては今のところあるとかそういうことは何も聞いていないわけでございます。

【秘書広報課長補佐】 ほかにいかがでしょうか。

それでは、次第の3番目、フリーの質疑応答へと行きたいと思えます。こちらも幹事社さん、ありましたらお願いします。

【記者】 北陸新幹線の敦賀開業に関して、さきに石井国交大臣が敦賀駅では新幹線、在来線特急、上下にするというコメント、話をされたというふうに聞いています。それについて市長の所見を伺えたらと思えますが。

【市長】 私も新聞等で拝見させていただいたことで、上下ということをおっしゃったということは聞いております。上下乗りかえにつきましては、乗りかえていく上で一番時間的に短縮できる、また負担の少ない上下式を検討して進めていくということが決まったというふうに理解しています。

【記者】 その場合、市の負担金が大幅にふえる可能性がありますよね。在来線の引き込みなども含めて。あともう一つは、市長が狙っていらっしゃる乗り継ぎ客の市内への誘引というのも妨げになるかと思えますが、いかがでしょう。

【市長】 それについてはもう既にいろいろ検討を行っていて、在来線、ムービングウオークにつきましてはいろいろ検討を行っているんですけども、上下乗りかえになったことによって必ずしもムービングウオークがなくなるということは考えていませんし、そこに影響はないというふうに思っています。当然、今までの在来線から新幹線に乗っていかなくてはいけない人たちがたくさんいますので、そういう人たちに対してはやっぱりムービングウオークは今までどおり必要だというふうに考えていますし、今までも上下乗りかえは検討の中にありましたので、それを決定しましょうということが決まっただけだというふうに理解しています。

【記者】 市内への誘引については。

【市長】 市内への誘導ですね。市内への誘導については、やっぱり引き続きムービングウオークを要望していくというつもりでおりますので、ぜひ実現に向けて。せっかく大臣にも敦賀駅を見ていただきましたので、求めていきたいと思っています。

【秘書広報課長補佐】 それでは、各社伺います。ご質問ありましたら挙手をお願いいたします。

【記者】 原電さんの敦賀2号機に関するトラブルが昨年から結構続いておまして、市長はよく原発に関しては安全が第一だというふうにおっしゃっていますけれども、それに関しての受けとめと、あと今後何か視察とか、また現場を見に行くことは考えていないのかについて。2点伺いたいんですが。

【市長】 いつも申し上げますように、本当に原子力発電所については安全が第一で対応していただきたいというふうには考えています。ただ、視察する予定は今のところ持っておりません。

【記者】 何かしない理由というのはありますか。

【市長】 しない理由というのは特にございません。もし必要があれば行かせていただきます。

【記者】 現時点では必要はないと考えているということですか。

【市長】 そうですね。今は予定がないです。

【記者】 当初予算に戻るんですけども、市長は、再興プランを昨年定めて当初予算で今回いろいろなことを盛っていますけれども、この再興プランで直接的に整備に力を入れているというのは金ヶ崎周辺とか、あとハーモニアスポーツとかその辺でしょうか。まだほかにもありますか。

【市長】 新幹線の受け皿づくりの中でという意味でしょうか。

【記者】 ええ。

【市長】 金ヶ崎周辺に力を入れていますし、もう一つは、キッズパークつるがと気比神宮の流れということをつくりたいというふうに考えていますので、ちょうど神楽のところの中心市街地のにぎわいを創出することで周りに波及したらいいなということも考えております。

【記者】 わかりました。

それともう1点なんですけれども、3月補正で公共施設の積み立てで9億円近く盛って、これには市庁舎の基金とかも入っていると聞いたんですけども、この前の中間報告では建てかえが濃厚というふうに市では表明していますけれども、今の市長のお考えはどのよ

うになっていますか。

【市長】 今も建てかえが濃厚だというふうに思っています。できるだけ前倒しでやっていきたいというふうに考えていますので、その準備を今からしようと思っけてしています。

【記者】 それは国の制度ができて、それにもらんでということですか。

【市長】 そうですね。熊本の地震がありまして国の庁舎に対する補助制度もちょっと変わりましたので、その補助が有利なときに、できれば間に合うように頑張りたいというふうに思っています。

【記者】 具体的に計画を何年前倒しするとか、そういうお考えというのは今のところないんでしょうか。

【市長】 今、総務部のほうで検討していますので、部長のほうから。

【総務部長】 庁舎の建て直しといいますか、その件のスケジュール的な話ですが、今市長もおっしゃいましたように、国からの補助というのが、新たな制度が昨年12月末に出まして、1月下旬ぐらいまでに大枠の話が出てきたわけですが、まだどういった詳細という確定までには至っていないんです。ただ、そういった形に該当する補助メニュー、こういうことに加わることができることならば、平成29年から4年間、32年までの間にしなければならないという期間があります。そういうことがありますので、今現在、それに乗っていけるかどうかということで鋭意検討させていただいておるとというのが現状でございまして、今のところ、それ以上のことはまだわからないというところです。

【記者】 わかりました。

【秘書広報課長補佐】 ほかにいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、これもちまして3月の市長定例記者会見を終わらせていただきます。

ありがとうございました。

午後1時55分 終了